

遊びの中に隠れた学びのヒミツ

わくわくドッキリDay! 4年ぶりの開催



7月4日、金川小学校で「わくわくドッキリDay!」が行われました。この行事は「遊びの中に隠れた学びのヒミツ」をテーマに楽しみながら学ぶプログラムで、当日は1年生40人と保護者が参加。はしの使い方、ちょう結びの方法、時計の読み方、重さとバランスなどを学ぶ4つのブースを巡り、世話役の6年生と一緒に学びました。

元全日本男子代表コーチに学ぶ

市総合体育館でバレーボール教室



7月29日、市総合体育館でバレーボール教室が行われ、小中学生や高校生約200人が参加しました。この教室は、本市とフレンドリータウン協定を結んでいるプロバレーボールチーム「福岡ウイングスピリッツ」が主催。参加者は、元全日本男子代表コーチのマサジェディ・ライアンさんや現役選手から本格的な指導を受けました。

防火衣を着て元気に敬礼!

田川地区防災協会が子ども用防火衣を贈呈



7月27日、田川地区防災協会が田川地区消防本部に子ども用防火衣を贈呈。この防火衣は、消防署見学やイベント開催時などに子どもたちが着るもので、防災教育の一環として使われています。今回の贈呈は、同協会の前会長・江藤正剛さん（写真中央）が発案。贈呈式では江藤さんのひ孫2人が防火衣を着て披露しました。

高校生が「先生」に変身

親と子のものづくり教室



7月29日、田川科学技術高校で「親と子のものづくり教室」が行われました。この教室は、同校の生徒が学んだ技術や知識などを地域に還元し、ものづくりの楽しさを知ってもらうために開いています。当日は親子など約20人が参加し、陶芸や木のおもちゃ作りなど3分野に分かれて「ものづくり」に挑戦しました。

なんち
かんち
マーティン・シールテューテ

国際交流員のマーティンさんがドイツの文化などを紹介するコラムを発信しています。




小学校の新入生に菓子筒 (Schultüte) をプレゼント

ドイツでは毎年9月に新学年が始まります。そのときに、小学校1年生になる子どもたちに「Schultüte / シュールテューテ」という特別なプレゼントをあげる慣習があります。

「シュールテューテ」を日本語に翻訳すると「学校の袋」という意味です。

70cmの長さがある厚紙から作られた、円錐の形をしている筒で、中にはペンケースや色鉛筆など、学校で使える筆記用具やお菓子がたくさん詰められています。包装紙には子どもたちに人気のあるキャラクターのイラストが描かれている

ことがよくあり、デザインはさまざまです。シュールテューテの慣習は19世紀にドイツ北部で始まりましたが、今ではドイツ全国で行われています。シュールテューテは家庭で作ることも多いですが、既製品を買うこともできます。ちなみに、私はたくさんのお菓子や親からの手紙をもらって喜んだ記憶があります。

